



東京多摩プロバスニュース

第 47 号

■事務局: 〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行: 広報委員会 2013. 3. 6.

■電話・FAX (042) 338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

キャリアと特技を活かし、次の世代に引き継ごう

第 103 回 定例会

日 時 : 平成 25 年 1 月 9 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 3 学習室

出席者 : 30 名(会員数 35 名)

第 104 回 定例会

日 時 : 平成 25 年 2 月 6 日(水)午後 1 時 30 分より

場 所 : 関戸公民館第 2 学習室

出席者 : 30 名(会員数 35 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

「三丁目の夕日」

研修・親睦委員長 上田清

かつて若い現役世代で占められていた多摩ニュータウンも、いつしか明るい子供たちの声も消えて、超高齢社会の真ただ中にあります。図書館やコミュニティセンター、レストランやデパートなどは元気な高齢者で賑わい、一見豊かな長寿大国の様相を呈していますが、その一方では健康や経済などに不安を持つ高齢者も多く、陰と陽が交差したオールドタウン?へと深化の道を辿っています。

御多分に洩れず、わがプロバスクラブも今や平均年齢が 75 歳という立派な老人クラブとなり、「活力ある高齢社会を創造する」といった崇高な活動理念・看板も年々色あせて、ささやかな地域奉仕でさえ難しくなる実情にあります。

中国の南宋時代に生きた朱新仲は、生計・身計・家計・老計・死計からなる人生五計論の中で、特にタブー視されがちな「老いること、死を迎えること」に係わる老計・死計の必要性を説き、時としてマイナス思考になりがちな老年期こそプラス思考で生きることの重要性、人生設計の大切さを 800 年前に指摘しています。

俗に「人生は何かをしようとする人にとっては短すぎるが、何もしない人にと

っては長すぎる」という言葉が骨身にしみる昨今ですが、改めて朱新仲が言うプラス思考で生きることの設計図を再検討して、もう一度失われつつある心の青春を取り戻していく必要があります。

あの「三丁目の夕日」の時代にみた数々の夢を拾い集めて……。

(注)「三丁目の夕日」: 西岸良平の漫画を原作とした山崎貴監督の映画タイトル

桜花爛漫の永山桜通り(多摩市)



1. 幹事報告

関根正敏幹事

1.1. 全日本プロバス協議会関東中央地区交流会

当クラブがホストとして2月20日(水)多摩アカデミーヒルズで第2回交流会を開催。プロジェクトチームを立ち上げ準備してきたが、全日本プロバスからの来賓を含め合計76名(内、当クラブ24名)の参加を得て、成功裡に交流を行えた。内容報告書は別途纏め、関係部門に配布予定。



交流会に参加したプロビアン

1.2. 東京八王子プロバスクラブ主催

「第17回生涯学習サロン」開講式

2月28日(木)八王子エルシィで開講式が行われ、当クラブから理事を中心に6名が参加。

1.3. 多摩ロータリークラブの支援活動への協力

多摩ロータリークラブは、東日本大震災復興支援として、多摩市内のボランティアグループが企画する被災地での子供向けコンサートツアーを協賛支援しているが、当クラブに資金協力の要請があり、理事会協議の結果3万円を拠出協力することとした。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

北村克彦委員長

1)1月度定例会(1月9日)

初めての試みとなる、八王子プロバスクラブとの交換卓話として、下田泰造さんによる「大道芸の生い立ちと実演」が実現。 関連記事 右下段参照

2)2月度定例会(2月6日)

阿部市長の講話「市政に対する方針とこれからの対策」を拝聴。 関連記事 P3参照

3)熊本房義会員がしばらく休会されることになる。2月現在、35名の会員の内、3名が休会となった。

2.2. 研修・親睦委員会

上田清委員長

現在下記の2つの行事を計画中である。

1)工場見学会

4月5日(金)多摩都市モノレール桜街道にある「森永乳業」を見学、その後、昭和記念公園を散策する予定。

2)花見ウォーキング

4月17日(水)京王線南大澤駅から、戦車道路を経て、小田急線唐木田駅までのウォーキングを行なう予定。

2.3. 地域奉仕委員会

滝川道子委員長

1)2月6日(水)定例会にて「東京都マイツリー計画」への募金を、今年も会員有志にお願いした。

2)2月7日(木)東京都立永山高校教育マナー授業に、東京八王子プロバスクラブの下田泰造氏を招き、「大道芸よもやま話―江戸商人の真髓を語る」をテーマに、2時限の授業を担当いただいた。 関連記事 P4参照

3)2月22日(金)志学サロンにて卓話「江戸しぐさ：副題『江戸の子育て』」を実施。

4)3月1日(金)吉岡喜久恵会員による「貝合わせ」授業を東愛宕小学校にて実施。

5)3月「寺子屋そろばん塾」を市内の小学校2校で実施予定。古澤靖雄会員をメイン講師とし、他会員支援のもとで行う。

2.4. 広報委員会

稲田興委員長

1)プロバスニュースの発行配布

第47号を平成25年3月6日(水)発行予定。

2)第二回関東中央地区交流会の報告書を作成中

3. 創立10周年記念事業プロジェクトチーム

大澤亘リーダー

第3回会議を12月19日(水)、第4回を本年1月23日(水)に、いずれも唐木田菖蒲館で開催。

第3回会議では、式典当日の記念講演の講師として挙げられた複数の候補者について検討し、更に、式典と祝賀会の会場についても、すでに提案されている複数の案について論議した。

第4回会議では式典・祝賀会とは別に行う10周年記念行事について、提案されている三つの案について比較検討した。次回はこれらについてのまとめを行う予定。

交換卓話 「大道芸の生い立ちと実演」

東京八王子プロバスクラブ 下田泰造氏

八王子プロバスクラブの呼びかけで、昨年始まった近隣3プロバスクラブ交流協議の結果生まれた事業の一つ



南京玉すだれの演技

「卓話の交換」が早速実現した。八王子プロバスクラブのトップバッターとして下田泰造氏がお見えになった。

わが会員のキャリアにはない異色の内容で、皆大いに楽しませていただいた。大道芸の歴史、用語の解説、ご自身で録音された貴重なテープ、果ては十八番「南京玉すだれ」の実演まで、ご本人曰く何時もは2時間15分で講釈されている由、1時間という限られた時間なのが惜しまれた。

私も終戦時小学3年だったのでお話のいくつかは記憶に

ある。勿論子供心に気をそそられたあの万年筆売りが、泥万というとは知らなかったが、ドロドロの灰の中から拾い出した何やらを布で拭くと、ピカピカの万年筆が出てきた「泣き売り」は…タイミング良くサクラが現われ(勿論サクラであるとは知ったのは知恵の付いた大人になってから)、つられて買う客が何人もいたこともお話の通り、妙に記憶している。バナナの叩き売りも、寅さんそのままに何処でも迫力があつた。バナナがライセンスを持った専門問屋しか取り扱えない、高価な時代だからこそその芸だった。

キセル直しの羅字屋も幽かに覚えている。富山の田舎育ちのおかげで祭の縁日、うらぶれたサーカス小屋のジンタの響きの中で軽業・綱渡り・猿回しなど。外ではガマの油売り、氏の用語で言えばベタ・三寸・バサなども懐かしい。

街を流し歩いたアサリ・シジミ・豆腐売りなど、物売りの声も耳に残っている。渥美清の「寅さん」ではないが、貧しくも暖かい街の記憶である。おそらく大方のプロバス会員も同じような記憶をお持ちだったからこそ自分史の追体験として氏の話に引き込まれたのだろう。

私が下田氏の話芸に感心した点がもう一つ、ただ面白い話だったと言うだけでなく、実は丹念に現場で集めたネタと、ご自身の当時の八王子の町の記憶を緻密に織り合わせ、地道な作業の末に、この魅力的なストーリーに仕上げられたのではないかということである。好きでなければできない事であり、頭の下がる思いである。

今やパフォーマンスとしての芸能になってしまったこれ等大道芸、我々も共有したあの時代はもう戻って来ない…その事に、私は一抹の淋しさを感じない訳にはいかなかった。

(文責 交流担当 増山敏夫)

講話 「市政に対する方針とこれからの対策」

多摩市長 阿部裕行氏



◆第五次多摩市総合計画

第五次多摩市総合計画は、平成23年に基本構想を市議会で議決いただき、概ね20年後の多摩市の目指すまちの姿を示したビジョンであり、4年ごとに社会情勢の変化も睨みリニューアルしていくしかけとなっている。

◆まちづくりの基本理念

①市民、NPO、団体、事業者、大学、行政など多様な担い手が対等な立場で協働、連携し、新しい地域社会の創造を

目指す、②市民一人ひとりが等しく尊重され、環境、平和、文化など豊かなまちの財産を次代へ継承する、③将来の世代にわたり、持続可能なまちづくりにつとめるため、財政的基盤が確立した自立的都市経営を進める、を掲げている。

◆目指すまちの姿

①子育て・子育て、学校教育、②健康、医療、福祉、③市民活動、コミュニティ、生涯学習、文化、④産業振興、雇用、観光、⑤都市づくり、住宅、防災、交通、⑥環境の六つの分野別計画、を描いている。詳細は基本構想の概要版をご覧ください。

◆多摩市の未来に向けた取り組み具体策三つのポイント

①保育園の待機児対策に取り組み、子育てしやすいまちづくりを積極的に進める。

②高齢者をめぐる見守りネットワーク、介護予防・健康づくりの推進、認知症高齢者支援でシニア力が生きる元気なまちづくりを進める。

③一人あたり公園面積で都内トップクラスの多摩市のみどりを「量の確保から質の向上」へ転換させ、市民力、地域力で守っていききたい。これらについて積極的に取り組むほか、平成25年度予算案では、重点施策として「防災まちづくりの充実」「循環型社会形成に向けた環境施策の充実」「地域力醸成に向けたコミュニティ施策の充実」の三つの施策について取り組みを強化することとしている。

◆具体的な取り組みの例

○持続的発展教育(ESD)を推進する。

○多摩市には市立の病院はないが、日医大永山病院など基幹病院を含め、医療施設は東京26市の中では6番目に多い。かかりつけ医をもつ方向で取り組む。

○できるだけ元気で在宅のまま老いを迎える仕組みを作っていく。

○地域で支えあい、暮らせるまちづくりの仕組みづくりを進めているが、多摩市は26市の中でNPO法人の数が一番多く心強い。

○スポーツの振興と環境整備に取り組んでいる。

○太陽光発電やエネルギーの地産地消などに取り組み、環境に優しいまちづくりを都と一体となって進めていく。

○男女平等・男女共同参画を推進していく。

○企業誘致を推進し、人々が集い、働く、活気あふれるまちづくりを推進する。

○帰宅困難者対策など、大災害に備え、安全・安心のまちづくりを推進する。

○学校通学区の見直しを進める。

○多摩ニュータウンの再生に向け、4月の組織改正で新たな課を新設する。

○広域幹線道路を整備促進する。

○多摩市の行財政刷新計画に取組み、多摩市の公共建築物

多摩市が今どういう状況にあり、これから市政はどういう方針で取り組んでいこうとしているのかについて、ご多忙な阿部市長から直接お話を伺うことができました。私達が市民の一人として何をなすべきか、何ができるのかを考えるきっかけにしていきたい。

◆◆◆ 講 話(つづき) ◆◆◆

の状況とこの問題を先送りしないための計画の策定と実行に取り組む。

◆質疑応答 (Q&A)

Q1. 下水道施設のメンテナンスは考えているか

A1. 計画はほぼ完成している。

Q2. 都営住宅の老朽化への対応

A2. 都に申し入れ、都市計画マスタープランを見直し、まちづくり全体を考えていきたい。

Q3. 大企業の誘致

A3. 昨年 10 月に野村総研が進出。多摩市は関東地区では岩盤が強いので、都と連携しながら進めていきたい。

Q4. 尾根幹線の活用

A4. 自転車専用道路などもプランに入れていきたい。

Q5. 経験、知識など豊かな人材の活用

A5. 3月9日にESD シンポジウムがある。お手伝いをお願いすることが多い。(文責:北村克彦会員)

◆◆◆ 委員会活動 ◆◆◆

1. 多摩中学校での貝合わせ 吉岡喜久恵会員

昨年 11~12 月に多摩中学校で貝合わせを行いました。

同校では、2 年生後期の総合的な学習「伝統文化継承～国際化社会へ旅立つために～」として、11~12 月に 8 回の講座で、玉川大学の小林亮先生の「伝統文化継承について」の講演会を皮切りに、私は後半の体験学習講座にうかがいました。11 コースの講座(着付け・畳・茶道・華道・百人一首・折り紙・なぎなた・布草履・陶芸・しめ飾り・平安時代の遊戯)から生徒が希望のコースを選び、私の「平安時代の遊戯『貝合わせ』」には男子 2 名・女子 8 名の希望者がありました。

1 回目; 11 月 16 日(金)、体育館で全体会(各講師の紹介)の後、図工室に移り貝合わせの歴史的な説明を行いました。生徒各々が一所懸命メモを取り、真剣に取り組んでいる姿がうかがえました。

2 回目; 11 月 30 日(金)、蛤貝に事前に用意した図案を描きました。花や文様・物語の図案・想像上の動物、学校生活の様子の図案など個性豊かな楽しいものが出来上がりました。



中学生の描いた貝の図案

3 回目; 12 月 7 日(金)、談話室に畳を敷いて、前回生徒が描き上げた貝も加え、貝合わせの遊びの実践を行いました。最初は戸惑いがあったものの、進むにつれて和やかな雰囲気、雅な遊びを楽しむことができました。

この遊びのルール最後に、左側と右側の貝がぴったり合ったとき『お見事でございます』と一同が言いますが、この講座が終わったあとも生徒たち同士いろいろな場面で、この言葉を口にして楽しんでいました。



筆者と貝合わせを楽しむ

認識がしっかり綴られておりました。また、講座終了 10 日程して生徒全員からお礼状が届き、先生方のご指導の

各回、生徒一人一人のレポートの提出があり、そこには「貝合わせ」というものを初めて知ったこと、また描いてみたいこと、これを後輩たちに伝えていきたいことなど、伝統文化の理解と

賜物と感じ入りました。私としても、この講座に参加させていただいたことを大変うれしく、心強く感じました。

2. 「江戸しぐさ」国士舘大学講演 滝川道子会員

平成 25 年 1 月 10 日(木)、国士舘大学町田校舎にて、体育・スポーツ科学学会体育学部子どもスポーツ教育学科の、教職を目指す 1~4 年の学生さん 400 名に 1 時間半の講演をさせていただきました。

国士舘大学というスポーツが主体で身体のがっちりした“もさ”をイメージしてうかがいました。まず女子学生の多いことに驚き、全体的に人なつっこい素直な学生達で、さすが挨拶がすばらしい。講演会場は大教室で、学生以外にも先生方の多いこと、余りあがらない私も少しドキドキしました。

「皆様こんにちは」の私の挨拶に、全員が大きな声で「こんにちは」と返してくださいました。久しぶりにとても気が良かったです。“江戸しぐさ”の第一歩ですもの。

講演が始まると、皆、身を乗り出して真剣に聞いておりました。特に江戸の子育ての話では、皆さん小学校の先生を目指しているとのことで、400 人の目が襲いかかってくるようでした。1 時間半があつという間に過ぎてしまったとの感想も頂き、すばらしい体験をさせていただきました。



3. 永山高校教養・マナーの授業 滝川道子会員

永山高校教養・マナーの授業に、当クラブの交換卓話でお話くださった東京八王子プロバスクラブの下田泰造氏(芸名・寿大吉)をお招きし、「大道芸よもやま話～江戸商人の真髓を探る～」のテーマで、お話と“南京玉すだれ”の芸を 2 時限にわたり披露していただきました。テーブルから流れる「納豆売り」「飴屋」「ガマの油売り」「バナナの叩き売り」などの口上。学生達は、何が起きたのかという顔をして聞き入っている者、無感動の者さまざまでしたが、さすがに“南京玉すだれ”の芸には「オー！」という声が出ました。



熱演の下田さん

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇



誕生日を迎えられました。
 写真左：左から1月誕生の堀内陽二
 ・池田寛・稲田興の各会員
 写真右：左から2月誕生の古澤靖雄
 ・鴻池敬和・山田正司の各会員



◇◇◇ サークル・会員の活動 ◇◇◇

1. 「からまつ」東京地区新年句会 登坂征一郎会員

1月19日(土)「からまつ俳句会」の東京地区新年句会が「鷺草句会」担当で、北上沢区民センターで開催され、主宰由利雪二先生をはじめ50数名(内、当クラブ「研句会」9名)が参加。主宰から「からまつ」同人の全国区での活躍、歳時記編集計画等の紹介があった。選句、披講、採点と進み、主宰による天・地・人作品の発表と講評が行われた。

当句会池田玄海さんの作品などが高得点を得、また、「鷺草句会」の小学6年生が参加、瑞々しい句に会場の喝采を浴び印象的であった。



選句風景

2. 「佗助」初釜を楽しむ 鈴木泰弘会員

新年の1月12日(日)、「佗助」(男性茶道の会)で御指導いただいている裏千家菊池宗秀先生のお招きにより、佗助会員15名(内当クラブ会員7名)が初釜を体験しました。

多摩市関戸公民館の茶室にて濃茶と薄茶をいただき、緊張の中にも至福のひと時となりました。新年を祝う席は「松寿千年翠」の軸、花は佗助椿、香合には宝珠形の鱗鶴、砂金袋の水指、銘宝来の茶杓や羽子板形の菓子器に、羽根の形の箸置等々おめでたい意匠の設えです。そして裏千家初釜の主菓子「花びら餅」や打出の小槌の形の干菓子は、いずれも菊池先生のお手製でした。



「佗助」の初釜

先生の心配りとお茶の世界の奥深さに触れ、改めて一層の精進を心に誓いました。また、御水屋は小西鶴葉先生、森川宗静先生(御兩名とも、当クラブ会員)が担当されました。

3. 第8回地域ふれあいフォーラム TAMA 茶会

森川静子会員

1月27日(日)、掲題のフォーラムが関戸公民館で開催され、私が指導している多摩大学付属聖ヶ丘中学校の茶道部員11名が茶席を担当しました。



茶道部の皆さん

「一碗から広がる友達の輪」をテーマに掲げ、床に

「円相」、箸置に唐子3人が手をつなぎ輪を作っている三ッ人形、その他立鶴の棗、竹の水指等を使用しました。

事前のアピール不足もあり、31名と来席者は少なかつたものの、生徒達にとってはゆつたりとお点前ができ有意義な1日だったと思います。

4. 市民茶会

小西加葉子会員

2月10日(日)、第8回多摩市民茶会が、関戸公民館で開催されました。

立礼席は多摩市茶道連盟の森川宗静先生、和室は浅川宗喜先生、茶室は佐藤光純先生でした。



茶会を終えて、右端が森川先生

私は前日に当クラブ会員であり「佗助」会員

でもある神谷真一、瀬尾日出男兩名とともにお席作りのお手伝いをしました。お二人は、お茶会は当日よりも準備が大変であることを身を持って体験されたようです。森川先生の席はオランダデルフトの花入にピンクのチューリップを入れ、お家元の額装をかけ、現代的な、遊び心のある春らしいお席でした。参加者は185人でした。

5. 多摩男声合唱団定期演奏会

中村昭夫会員

創立40周年を迎える多摩男声合唱団の定期演奏会が1月20日(日)パルテノン多摩の大ホールにて開催。演奏会は3部構成で、第1部丸山薫作詞、多田武彦作曲による男声合唱組曲「北国」(山の村の清澄な抒情と人間愛に満ちた詩情を描いた作品)、第2部フォーレ「レクイエム」(死者のためのミサ曲、東日本大震災で亡くなられた人たちの安息を祈るために)、第3部「アメリカン・ポピュラー・ソング」である。ほぼ満席となる盛況であった。

男声合唱のハーモニーに加えて第2部ではソプラノ、カウンターテナーのソロが入り、第3部ではゴスペル歌手との協演など多彩なプログラムに聴衆の人たちは大変満足いただき、高い評価をいただいた演奏会であった。



ゴスペル歌手との協演

◇◇◇ 私の一品 ◇◇◇

「私の奉納経帳」

倉賀野武士会員

この奉納経帳は、私にとってかけがえのない一品である。仕事をリタイヤし、何となく心が満たされない日が続いた70歳目前に、機会があつて四国霊場八十八ヶ所の札所(寺)を巡礼することができた。四国(阿波・土佐・伊予・讃岐)路約145kmを約1ヶ月半かけるかなりハードで本格的な遍路なので、齢や健康などを考え、ジャンボタクシーを利用し、春・秋・春の3回、1年半かけて巡礼することにした。

事前に遍路の心得、参拝手順、般若心経の読経・写経・納め札などの準備を行い、平成16年4月1日に徳島空港に降り立ち、桜吹雪の中、花遍路のスタートとなった。

白衣、輪袈裟などで身支度を整え、いざ第一番竺和山靈山寺山門にて合掌、手を洗い口をすすぎ、本堂へ進み、献灯、献香、納め札と写経を納め、お賽銭を入れ、開経偈を初め十近い経を唱える。大師堂でもほぼ同じことを行なう。鐘楼があれば鐘を突くのが一コースとなっている。同行者9人なので慌しくペースを合わせるのに苦労した。我々は信仰・観光・健康を主眼としたので、ホテル・民宿・国民宿舎・宿坊などを利用し、一ヶ所に3~4泊するゆとりがあり、途中の観光地に立ち寄ることもでき、楽しんだ。

今、奉納経帳をめくると、三十八番金剛福寺の近くで、足摺岬の青海原に映える白亜の灯台、日没、日の出に感動したことや、五十一番石手寺近くでは、道後温泉の「坊っちゃんの湯」に浸かり心身がいやされたのを思い出す。



感極まって号泣したという歩き遍路ほどではなかったが、八十八番医王山大窪寺での結願では、1年半の遍路を振り返り達成感を味わった。結願の後、直ちに高野山へ参拝し、その報告をし、心なしか身が締まる思いだった。

一度目は無我夢中だったが、二度目の平成21年は、別格二十霊場を加え、

百八の寺を巡礼した。同じコースを50回・100回も巡る人もいる。凡人を虜にさせる何か霊場にはあるのだろう。

今も同行の方とは親しくさせていただいているが、その中で一番元気に山道を先頭で登っていた人が病で他界した。人の世の無常を身近に感じる出来事だった。また機会を作り、札所巡りを続け、精進に励みたい。奉納経帳の頁が朱色と墨で埋め尽くされるまで……合掌。

◇◇◇ 会員の活動(つづき) ◇◇◇

永田宗義会員の写真展

平田哲郎会員

さる2月12日から24日まで永田宗義会員の七回目の写真展が、多摩市貝取のコーヒーショップ「白樺」で開催されました。その間に訪れた方は200人を下らず、それぞれ印象文を残しておられますが、異口同音に永田さんの誠実さを作品の中に読みとった評価が目立ちました。

32点の作品の中で特に目を引き、また、評価の最も高かったのは「秋彩鮮やかな白駒池」の作品です。八ヶ岳高原の中腹にあつて特有の静謐さをたたえた白駒池に鮮やかな白い雲と紅葉が姿を移し、引き込まれるような心地よい広がりを見せたなかなかの傑作です。

その他に「新春の雪景と富士」は極身近なスポットから雪の朝、早朝の光線の角度を計算して素晴らしいタイミングで丹沢山系越しの雪富士を撮った秀作でその計算の妙に感心させられました。



永田会員の写真展

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

○全日本プロバス協議会からの依頼で関東中央地区交流会の運営を当クラブで引き受け、成功裏に終了しましたが、その裏で中村会長以下理事会のメンバーのご苦労は大変であったと思います。なかでも、当初の準備段階から当日の運営と司会に八面六臂の大活躍の関根幹事、そしてまた、会場設営に必要なこまごました準備作業を引き受けた北村総務委員長は、急逝された御母堂の葬儀(松本市)で多忙の中にあつても、きっちりと作業を仕上げピンチヒッターの神谷副幹事にスイッチされたとのこと、感心いたしました。○多忙を極めておられる阿部裕行市長の講話が漸く実現しました。市長のきめ細かい説明に、多摩市の今後の問題点が浮き彫りにされ、我々も今後一層市政に関心が持てると思います。

○「私の一品」に投稿いただいた倉賀野会員の「私の奉納経帳」で、同会員の多彩な趣味の一端を覗かせてもらい、改めてそのエネルギッシュな行動力に驚かされました。

(平田哲郎会員記)

◆◆訂正のお願い◆◆

既発行の本紙第46号7ページ「新年を寿ぐ」第4句目；誤：一笑⇒正：一生 と謹んで訂正させていただきます。